

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101343		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい黄瀬川 (2ユニット共通)		
所在地	静岡県沼津市大岡266-9		
自己評価作成日	令和3年 1 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和 3年 3月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和 3年 2 月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階が小規模多機能ホーム、2階と3階がグループホームとなっております。グループで定められている「私たちの仕事の約束5か条」「私たちの介護の約束5か条」に沿った支援に努めております。

また、事業所の「笑顔がいっぱい なじみのわが家」という運営理念のもと、明るい雰囲気です利用者様が笑顔で過ごしていただけるよう心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な新興住宅地の一角にあり、交通量が少ない安全な場所に立地している。コロナ禍により現在は外出機会が減っているが、事業所から見える公園へ散歩に出掛ければ近隣の親子連れと挨拶を交わす機会もある。事業所ベランダのスペースを利用して日向ぼっこをしたり、プランター菜園の水やりを日課にしたりして積極的に外気に触れる工夫をしている。法人全体の方針でBCP対策(事業継続対策)に着手し始め、当該事業所でも平常時の防災訓練に加えて初動対応や備蓄品の見直し等にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに事業所の理念を掲示している。申し送り時に復唱をし常に意識をもって業務を行っている。	コロナ禍で利用者と家族が見えない不安を抱える中、職員は事業所理念にある「笑顔」を忘れず利用者本位に取り組んでいる。職員の明るい振る舞いに対して、家族アンケートで感謝の言葉が寄せられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者と日常的に外出(散歩・買い物等)して、地域住民との触れ合いをしている。地域の秋祭りでは、毎年施設前で太鼓の演奏をしてくれている。	自治会に加入しているが、交流するところまでは進展していない。地域包括支援センターのサポートを受けながら事業所の理解を得るきっかけを模索中であり、根気強く取り組むべき事項と捉えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や運営推進会議等において、その都度、地域住民の参加者及び家族に対して、認知症高齢者の知識・介護技術等を教育するよう努め、ホームでの透明性を見出している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回の運営推進会議を開催し、ご利用者の活動状況を報告している。また、ご利用者家族、地域包括からの意見を参考にサービスの向上に努めている。現在は、コロナ禍により、紙面上にて。	コロナ禍により昨年8月以降開催していないが、事業所の現状や利用者の様子を2ヶ月毎に関係各所及び家族に書面で伝えている。ヒヤリハットや事故報告に関する対策や対処法を詳細に知らせており、家族の安心に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者との連携を取り、利用者の生活状況、ニーズを伝えて連携を図っている。又、運営推進会議に市担当者が出席の際に、サービス提供の取り組みを話している。コロナ禍により、地域行事などが開催されていなく、交流が難しくなっている。	市長寿福祉課窓口には書類等の提出に向く程度で、地域包括支援センターとの関わりが多い。同センターから有益な情報提供があり、相談支援も受けている。地域に関する取り組みには欠かせない存在である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度、事業所内研修を行っている。	実際の行為をチェックシートで周知する新たな施策は職員意識の把握に繋がり、指導方法の選択に役立っている。法人の身体拘束廃止委員会はもとより、事業所内の全体会議で研修等を行っている。身体拘束の度合いを色で分類し、検討・改善に繋げる取り組みは、効果が見られ現在も継続している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的なアンケート、研修を行い、防止に努めている。通報訓練等実施をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の人権と尊厳は重要な課題であり、管理者、職員に対して研修会、実践講座等に参加できるよう積極的に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に利用者本人及び家族に対して契約書、重要事項説明書を懇切、丁寧に説明を行い、その他の疑問点等にも応じるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて利用者の家族、民生委員等にも参加していただき意見等を聞き話していただく機会を設けている。	利用者が普段過ごす居間で一緒に運営推進会議を行っている。時には利用者の声も上がり、やりたい事や希望のメニュー等、本人の意向把握に繋がっている。家族の要望でコンロをガスからIHに変更したり、湯煎食を取り入れたりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、全体会議にて機会を設け、職員からの発言については傾聴し、施設運営管理面に反映させるように努めている。	人事考課の個人面談では、管理者が自己評価に対してフィードバックを行い相談や要望も聞いている。コロナ禍によって変化した職員のライフ・ワーク・バランスに配慮し、シフト変更にも対応している。感染症対策に関する職員意見は、随時対処して現在落ち着いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者、職員に対して個別に面談を行い、健康管理にも注意を払っている。キャリアパス制度の導入をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上のための社内研修、外部研修の参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護保険事業者との交流として意見交換認知症高齢者施設団体等が開催する研修会等に参加させて交流の場の機会を与えることに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活暦を把握することで趣味、嗜好を十分に理解し、不安なことがないように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることを聞き出し施設を利用するにあたってはご本人様が安心して生活できるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体的、精神的、生活面等多方面からアセスメントし対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の担当を決定しご本人様の希望や困っていることに対し対応し、各自の出来る事を尊重して、協力して生活している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に思いを伝えたり、ご家族の思いを聞き、関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、知人の面会を大切にしている。外出の支援なども心がけている。	家族と外食に出かける等していたが、コロナ禍の現在はベランダ越しの面会のみ制限している。近々職員用タブレットを取り入れる予定があり、今後はリモート等での面会も検討していく。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓席に配慮し、関係が良好な方たちを集め見守り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設、医療関係へ移られた場合はサマリー等で情報交換を行っている。退所後も必要に応じて面会を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当者が状態の把握を行い、趣味、嗜好を把握できるよう努めている。	食後に居間のソファで寛ぐ利用者同士の会話から意向の把握に繋がることもある。判断に迷うときは臆測で決めつけず、家族に経緯や理由を確認している。把握した情報は記録に残し、介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談、相談の段階で生活歴を聞き出し、その人に合った支援を見出している。開始時には馴染みの物を持ってきていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態、気づきがある時には、職員全員で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人の持つ力の発見や気づきがある時には職員全員で情報の共有に努めている。	本人と家族の意向を職員と医療関係者で共有し、介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、状態変化があれば随時見直す事を基本としている。長い人でも半年で見直し、現在は電話等で家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録に利用者の状態を詳細に記載している。介護の方法等が変更される場合は申し送りノートにて情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人ご家族の要望を尊重し、外出、外泊の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の協力の下、お祭りや町内清掃等に参加されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面談の段階で家族に意向を聞き、家族の希望に十分配慮している。専門通院、入院等は本人、家族の希望に沿っている。	利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。定期往診は月2回で法人看護師の巡回も週2～3回ある。24時間オンコールでの対応が可能であり、医療体制に安心感がある。外部専門医への受診は家族の付き添いが基本であるが、事業所で対応(有料)する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設巡回看護師による、身体管理及び提携を結んでいるクリニックによる訪問診療・訪問看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院退院時には看護・介護サマリーを提供し情報交換を行っている。また出来る限り入院中はお見舞いに行き状況把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの対応が必要になった場合、主治医と家族とカンファレンスを開催し、方向性や対応を検討していく。	看取りの段階に入った利用者が現在2名で、看取りに関する指針に則り準備している。家族の心配や職員の不安を明確にして、予測できるケースを予めカンファレンスで取り上げ話し合っている。対応マニュアルを作成し、職員や家族にとって後悔を残さない支援を心がけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している。勉強会を実施しマニュアルに沿って行動できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害の勉強会を行い防災についての理解を深めている。防災訓練の実施をしている。	河川が近いが、ハザードマップ対象区域ではない。年2回の通常訓練に加えてBCP訓練も実施している。食糧等の消耗品は法人からの一括配送で、7日分の備蓄を防災委員が管理している。生活用水としては貯水槽があるが、蓄電池は検討中である。	特に夜間の避難には近隣や地域の協力が不可欠である。引き続き協力体制の構築に努める事が期待される。迅速な避難に備えて、消防署と事業所内の待機場所を再確認しておく事が望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常会話は尊敬語を使っている。個人情報の取り扱いにも注意し、書類は必ず所定の場にて保管している。	呼称は「さん付け」に徹底し、きちんと説明してから動作を始めるように指導している。時には気になる対応もあるが、状況に応じて注意喚起している。トイレや入浴時の羞恥心に配慮し、「隠す」「羽織る」等で必要以上に見せない支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の安全性をふまえた範囲内で自由に行動をしていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の気持ちや体調に合わせて利用者様に無理のないように要望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を活用している。自分から申し出が難しい方には適宜言葉をかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事、おやつ作りが可能な利用者については一緒に調理を行っている。	湯煎食材を利用しており、調理の段階で包丁で刻んだり、皮むきを手伝う人がいる。下膳は皆が行い、洗い物や食器拭きをする利用者もいる。プランター菜園で収穫したトマトやえんどう豆、イチゴが食卓に色を添えている。調理の匂い、盛り付けの量や色合い、温かさにも気を配っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェックを行い、また疾病のある方の摂取量、排泄量状態を見ながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア。週1回、歯科衛生士によるブラッシングを実施している。歯科往診にて口腔内の異常を早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、その方に合った対応を心がけている。	自らトイレに行く人は3人で、パットを使用する人が多い。オムツ使用は看取り段階の2人のみである。本人の希望で夜間にポータブルを使用する人もいる。失禁や汚れに対しては本人が立ち上がるタイミング等で誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取状況を把握している。主治医に相談し、服薬コントロールを行っており、必要時、看護師にて排便を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望に沿った支援をしている。ご本人の体調や気分に合わせて気持ちよく入浴できるよう配慮している。	週2回午前中の中の入浴が基本であるが、時間外や毎日の入浴にも対応可能である。強い拒否のある人には無理強いせず、1回は清拭を行っている。乾燥対策で私物の保湿剤や化粧水を使用する人もいる。冬にはゆずを湯船に浮かべる事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の湿度、温度管理を行い心地よい環境づくりに努めている。覚醒時間、睡眠時間についてチェックを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイルしており、薬の説明、用量、副作用について認識している。症状の変化があった際はしっかり申し送りにて共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、買い物等個人の楽しみに沿ったことを提供し、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の意向に沿って散歩や買い物に出掛けている。誕生日には、希望の場所へ外出し、希望の食事を準備しお祝いをしている。 コロナ禍により現在、外出は控えている。	コロナ禍により外出に対しては消極的で、散歩も控えており室内でのレクリエーションやイベントを増やしている。ベランダで外気に触れて日光浴をしたり、個人対応で車窓ドライブに出掛けたりして気分転換を図っている。 外出できるようになるのを心待ちにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にて金銭管理されている利用者様については、ご本人の意思に沿った使い方が出来るよう心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の声が聞きたいとの要望があるときは、直接お話いただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内の湿度、温度には注意をはらい過ごしやすい環境づくりに配慮している。季節にあった飾りの掲示をしている。	共有空間の清掃は職員が毎日行い、利用者がモップ掛け等を手伝っている。消毒は利用者の動きに合わせて念入りに行い、定期的に換気もしている。職員と利用者共同の製作物を飾り、季節感を出している。食後にはソファで寛ぎ、利用者同士が会話を交わす姿も多く見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアは日当たりがよく、ご利用者のペースで過ごされたり、一緒にお茶を飲んだりと楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい家具の配置、馴染みの物やお気に入りの物を持参し安心した空間となるよう配慮している。	クローゼット、ベッド、エアコンが備え付けで、持ち込み品にはテレビや写真、お気に入りの置物等がある。布団を希望する場合にも対応している。衣替えは家族が行っていたが、現在は職員が対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の解消、手すりの配置、ベッド柵を個々に合わせ配置している。車いすや歩行器の使用は十分可能なスペースを設けている。食器洗い等、安全面に配慮しながらできる支援を行っている。		